

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年7月23日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 13名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3890101102
事業所名	グループホームあわい
(ユニット名)	かなでユニット
記入者(管理者)	
氏 名	横山啓介
自己評価作成日	30 年 7 月 7日

【事業所理念】 ・お年寄りに対する尊敬の気持ち ・やりがいのある職場づくり ・地域社会への貢献	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 口腔ケアの充実・レベルアップを目標に内、外部への研修参加や歯科医からのアドバイスを受けスキルアップを目指した。職員の口腔ケア に対しての意識と、利用者の口腔内環境改善へつながった。 玄関ホールへ運営推進会議ファイルをおいて家族が閲覧できるようにした。面会時や電話にて開催のお知らせをし参加につなげていく。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 高齢者総合福祉施設として認知症デイサービスや小規模特別養護老人ホームなどが併設 されている開設5年目を迎えた事業所である。法人の母体は長年地域医療や福祉に貢献し てきた実績があり、利用者や家族、地域からの信頼がある。職員は向上心を持って安心し て働くことができる環境であり、管理者や職員同士が良好なチームワークを築きながら和や かな雰囲気の中で、利用者を尊重し思いや笑顔を大切にしたケアを行っている。併設施設 と一緒にボランティアの受け入れや、行事やレクリエーションなど様々な取り組みを行って おり、利用者の楽しみにつながる支援を実施している。
--	--	--

評 価 結 果 表

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、 意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	利用者さんの希望や思いを大切に、ケアプランに取り入れるようにしている。	◎		◎	利用者や家族から意向や暮らし方の希望を聞いたり、日常生活の関わりの中 で知り得た利用者の思いなどを把握して、職員全員が情報を共有するよう に努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人の意見が確認出来ない時は、ご家族さんからの意見を参考にしたり、職員が集まり話し合うこと で「本人が望まれていること」を考える。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	ご家族、親せきの他に、面会に来られた知人や友人と共に、本人の思いを話し合うことがある。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	ケアプラン作成時に、本人及び家族の生活に対する意向を記入した「居宅サービス計画書(1)」を 記録している。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	本人の思いを見落とさないよう、普段の生活の様子からも変化、要望がある時はその都度聞き入 れられるよう気をつけている。				
2	これまでの暮らしや 現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス 利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所時に、センター方式を用いた用紙へ記入していき、付け足しをしながら、これまでの暮らし方や こだわりを理解していけるようにしている。			○	利用者や家族、入居前に利用していたサービス事業所などから生活歴やこ だわりなどを聞き取っている。情報は追加の部分もわかるように記録し、馴 染みの暮らし方が継続できるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努め ている。	○	できること・できないことを見極め、その時の状況に応じた関わり方でケアに当たっている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	本人が不安になる場面があれば、それを把握しておき、なるべくそのような場面を作らないように、 そのような場所に行かれないように気をつけている。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかか わり等)	○	本人にとって不安、ストレスとなっているものを職員個々が考え、話し合いながらその状況が改善で きるように努めている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握してい る。	○	利用者一人ひとりで生活リズムや日々の変化があり、それぞれに違うので、それらを理解した上 で、関わるようにしている。				
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人とご家族の他、友人や知人の意見や要望も取り入れながら。職員含め担当者会議として話し 合いを行っている。			○	担当者会議で利用者や家族、職員や関係者と話し合って何を必要としてい るか利用者の目線で検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	本人がより良く暮らすための支援を行えるようチームで検討している。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	担当者会議を行い、検討した後も、残された課題として今後、取り組むべき課題を明らかにしてい る。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人が より良く暮らすための 介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の思い、意向など希望が取り入れられ、考えられている。	/	/	/	利用者毎の担当職員と計画作成担当者が意見やアイデアを出し合い、管理者と介護支援専門員が、利用者や家族の意向等が反映されているかどうか確認しながら介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	計画作成時には、本人と家族等含め、その他の関係者が意見やアイデアを出し合い、反映させている。	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	その方が慣れ親しんだ暮らし方や、日々の過ごし方を尊重しながら、現在の状態に応じて無理のない安楽な生活が送れるように配慮している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	ご家族、地域の人たちの協力を得て、成り立つ介護計画となっている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた 日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	利用者一人ひとりの介護計画は、ユニット会にて職員間に把握され、共有できるようにしている。	/	/	◎	介護計画の支援内容に沿ってケアを行うことができたか、利用者毎に毎日確認して記録することで、職員は利用者一人ひとりの介護計画の内容を理解し職員間で状況確認ができるようになっている。利用者毎に日々の暮らしでの言葉や表情等について具体的に記録している。利用者の様子や職員の気づきなどが経過記録に記入されており、日々の支援につなげることができている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	ケアプランの内容で、日々ケアが実施出来たかを確認するチェック表があり、○×によって毎日評価し、確実に支援が実施できるようにしている。	/	/	◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	一人ひとりについて、カルテの経過記録に、具体的な日々の暮らしの様子を、言葉や表情等交えながら具体的に記入している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	一人ひとりの記録には、職員の気づきや工夫したことも記入している。	/	/	○	
6	現状に即した 介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	入所後1ヶ月、その後は3ヶ月、6カ月と定期的にケアプランの見直しを行っている。	/	/	○	介護計画は入居1か月後に見直し、その後は3か月毎に見直している。状態に変化が見られない場合でも、毎月モニタリングを行うことで現状確認を行っている。利用者に変化があれば、家族等を交え介護計画の見直しについて話し合い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月月末には、担当者がケアプランの実施状況を確認し、評価を行い、カルテに記録することとなっている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	本人の心身状態、暮らしの状態に変化が生じた場合には、その都度、関係者を交えてケアプラン見直しを行い、状態に応じて新たなプランを作成している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	ユニット会では定期的な見直しの時期に、ケアプランの見直し、職員間で意見を求め合い、参考にしている。緊急、必要時は会議を開き、話し合いの場を作っている。	/	/	○	日々の申し送りやユニット会議で利用者について話し合い、情報共有に努めている。参加できなかった職員は、会議録を確認し理解した上でサインし共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	会議では、職員がお互いに意見を出しやすい雰囲気を作り、相手の情報や考えをよく聴き、自分の意見も伝えるようにしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	可能な限り多くの職員が参加できるように、開催日時は日中(第4木曜日 14:30～)に決め、ユニットのスタッフルームにて実施している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	会議で話し合われた内容は、「会議録」として記録し、全職員に確認してもらうようにしている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	職員間での情報伝達は、口頭で伝える以外に、伝達ノートを作り、伝達事項の記入と、確認後のサイン記入を行い、情報共有を行っている。	/	/	○	会議録や伝達ノートを活用し、確実な情報伝達ができるような仕組みを作っている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	夜勤明けの職員から早出職員へ、早出職員から遅出職員へ、遅出職員から夜勤者へと申し送り、情報伝達を行い、重要な事項が必ず全ての職員に伝えられるようにしている。	○	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	会話の中から今なにをしたい、何か気になることを察し出来る事、提供出来る事は実現する。	/	/	/	日常生活の中で、入浴日時や外出先など、利用者が自己決定できる機会を作っている。おやつの内容も数種類の中から好みのものを選べるようにしている。利用者の笑顔や意欲が引き出せるような声かけや雰囲気づくりを大切に支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	買い物等の選ぶ楽しみ、お手伝いでのそれぞれ好みの役割等、意思を尊重している。	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	利用者が想いや希望を表せるような工夫や働きかけが足りない。自分で決めたり、納得のいくような対応は心掛け実行している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にした支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	限られた時間内ではあるが、満足いくようなペースで行っている。起床や食事無理強いしていない。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	ジョーダンも織り交ぜ笑顔を引き出せるように努めている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	経験豊富な職員であり、日頃からよく観察している。家族やセンター方式等より情報を集め様々な角度から意見をだしあう。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にした言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	内部勉強会にて、認知症の理解・プライバシー保護・職業倫理とうにより教育を行っている。	○	○	◎	職員は定期的に勉強会で人権や尊厳について学ぶ機会がある。利用者を尊重した丁寧な声かけを行うなど支援に努めている。居室は利用者のプライベートな空間であることを理解し、入室時の声かけは徹底して取り組んでいる。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	配慮しているが、時になれ合いが出てしまい配慮に欠ける場面がある。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	声掛けの大切さ、本人に合わせたペースをよく理解している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	明らかに居室不在と分かっても必ずノックは行う。ほとんどの職員が声掛け行い入室している。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	プライバシー保護・個人情報の保護の勉強会を行っている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	理念にもある、「人生の大先輩」を一人一人が念頭に置いている。入居者の自信につながるよう「助かります」「ありがとうございます」は欠かさない。	/	/	/	利用者一人ひとりの性格や状況などを考慮し、不穏になりそうなことがあれば、職員が必ず間に入り未然に防ぐよう努め良い関係が築けている。利用者同士の関わりを大事にしながら、利用者全員が気持ちよく過ごせるような環境づくりに取り組んでいる。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	業務を通じて職員一人一人が感じている、お互いさま・お蔭さま、助け合う大切さを分かっている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	日頃のケアを通し、利用者の性格、行動を十分把握し、トラブルにならないよう配慮している。必ず間に入り良い関係作りに努めている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	必ず素早く間にはいるように心掛け実行している。必要であると判断すれば家族の協力もお願いし話を聞いて頂く。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	センター方式により生活歴等の情報収集しているが、家族によったら情報不足があったり職員の認識不足もある。聞き取りにて収集してはいる。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	センター方式により生活歴等の情報収集しているが、家族によったら情報不足があったり職員の認識不足もある。聞き取りにて収集してはいる。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	親しい知人の方に会いに行ったり食事に出かけられる機会がある。他にもお墓参りや法事等、ご家族と共にご自宅等への一時外出や、お出かけされる機会がある。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	接遇には力を入れており、気持ちの良い挨拶、お話し、おもてなし(お飲み物・椅子等)を素早く行っている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	洗濯物干しやゴミ捨て天氣のいい日の屋上での日光浴、お散歩へ行く。	○	○	○	定期的に買い物や散歩、外食のほか今年は事業所全体で歌謡ショーに出かけており、利用者の希望に沿いながら積極的に外出支援を行っている。重度の利用者は屋上で外気浴をする程度なので、時には散歩するなど気分転換にも取り組んで欲しい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	外出の頻度を増やすよう取り組んでいる。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	車椅子にて花見観賞や日光浴を行っている。	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	野球観戦や演劇を見に行く計画を立てている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症や行動心理状況についての勉強はし理解はしている。要因を紐解き様々な案は出している。	/	/	/	居室のタンスに利用者が理解しやすいように衣類の種類を記したシールを貼り、自分で衣類を整理収納しやすい工夫をしている。下肢筋力の低下防止のための廊下歩行や、発語を促す発声練習等、心身機能の維持向上に取り組めるような環境づくりにも配慮した支援に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	△	理解できている職員はいるが、効果的な取り組みとはいえない。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	本人にやる気が湧くような声掛けや励ましを行い、出来る事を見極めながら一緒に頑張るように援助している。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	入居前のp情報収集や入居後のセンター方式での分析を行っている。	/	/	/	茶道の経験のある利用者にお茶をたててもらいお茶会を毎月行っているほか、普段の生活の中でもゴミ捨てや掃除など役割を持ってもらうことで、張り合いのある生活につなげている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	工夫が足りない。バリエーションがなく、もっと脳が活性化するような内容だったり、自然とやる気が湧くような体操があればと思う。	○	△	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	あわい地区の公民館祭りへ製作品を出展した。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	それぞれの好みは必ず取り入れる。このスタイリングでいいか本人の感想も聞くようにしている。自分で洋服を選んでもらう。	/	/	/	整容の乱れなどがあってもあからさまな声かけではなく、利用者のプライドを大切にした声かけに配慮している。服装は利用者の好みを尊重しながら、季節に合ったものを選んでいく。定期的に美容師の訪問もあり、希望があれば毛染めもできるため、重度の利用者も含め入居前のおしゃれを継続して行うことができる。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	それぞれの好みは必ず取り入れる。本人の感想も聞くようにしている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	馴染みの服や家族へ聞き取り情報収集している。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出の時は家族さんへも相談しながら選んでいる。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にせずさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	口にはださない、整容ケアには十分配慮している。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	可能な限り希望を聞き、馴染みの美容院が外にある方は家族と外出もされる。カラーやパーマも施設でも可能。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	着るものの調節には注意している。循環の悪い方には保温に気をつけ、四肢や顔色の状態は気をつけている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食の大切さ楽しみは皆が理解している。	/	/	/	調理の下ごしらえなど、できることは利用者と一緒にやっている。食べたいものを聞いて、食事の好みやアレルギーなど把握している。職員が竹を用意して流しそうめんをするなど、行事食や食べることを楽しんでもらえるような工夫をしている。食器類は馴染みのものや利用者に合ったものを用意している。職員はなるべく利用者と一緒に食卓を囲んで、和やかな食事の時間になるように配慮している。重度の利用者も調理の音や匂いを感じてもらったり、献立の話をして食事を楽しみにしてもらっている。献立は法人内で各事業所が持ち回りで立てており、栄養士にも相談し利用者がバランスの取れた栄養が摂れるよう支援している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	食材の下処理を一緒におこなっている。食べたい物を聴き注文に加えている。食器洗いや後片付け一緒にしている。	/	/	◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	得意な方にはお好み焼きやホットケーキを御願ひしたり、自信へとつながるように感謝の言葉も必ず添える。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	センター方式、日々のコミュニケーションの中から情報を得、申し送りにて共有している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	法人統一メニューであり、グループホームあわいが献立を立てるのは6月、7月分である。サイドメニューをなにかつけたり、味付けを少し変えたり個々のニーズにこたえている。行事等では献立も変更する。	/	/	◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いんどりや器の工夫等)	○	誤嚥と一人一人の食事形態にはきをつけ、利用者が美味しいと感じるようにみじん切りにしたり、とろみを加減したり、している。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	馴染みのものを用意していただいている。	/	/	◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさげなく行っている。	○	一緒に食事している。サポートも素早く行っている。	/	/	○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	匂いや音、話を通して楽しみにまっていただけしている。	○	/	◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	△	カロリー計算までは行っていないが食事の摂取量、状態観察、水分量のチェックを行い、きちんと栄養摂取できるよう考えている。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	脱水の危険は理解しており、水分チェックもしている。必要時はエンシュア・リキッド(栄養剤)処方して頂いたり、アクチット輸液の点滴の指示を受けている。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	調理の得意、不得意が職員間でありアイデアも声掛け合いながら協力して作っている。献立や季節の食材等栄養士に相談している。	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	係を決め、冷蔵庫や食材の在庫の確認を頻回にしている。生ものは使い捨てのまな板使用や、消毒の徹底により食中毒防止している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの外部勉強会へ行き、自施設にて振り返りの伝達講義をおこなっている。				自分で歯磨きを行う利用者に対しては、口腔内の状況が十分に把握できないと感じており、今後は利用者全員の口腔内の健康状態の把握に努めて欲しい。歯科医の往診があり、口腔内チェックや異常時の処置など迅速に対応しているが、今後は毎日口腔内の清潔保持ができるよう職員全員で取り組むことが望まれる。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況（虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等）について把握している。	△	自分で歯磨きされる方、拒否される方への口腔内の状態確認が不十分な時がある。			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	研修等あれば参加している。往診の先生に助言やアドバイスをいただく。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	出来るところはして頂き、仕上げは行い、消毒も欠かさない。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。（歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等）	△	自分でされる方への状態確認（清潔確認）が不十分である。			△	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	傾聴・観察し迅速に対応している。協力歯科（光洋台DC）より往診あり。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	可能な限り自然な形で排泄に努めている。安易に紙パンツ使用しない、オムツの使用も身体状態を家族を含めて慎重に検討している。				利用者一人ひとりの状態に応じて排泄パターンを把握しながら、なるべくオムツを使用せず、トイレで気持ちよく排泄できるよう取り組んでいる。法人の病院から入居される利用者はリハビリの先生とも相談しながら、排泄自立に努めるなど、個々の状態に応じた支援に取り組んでいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	グループホームでの勉強会をおこなっている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。（間隔、量、排尿・排便の兆候等）	○	排泄状況チェック表にて把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	必要性についても見直ししたり、状態に応じてオムツはずしへの意識も持っている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	看護師にアドバイスをもらいながら、皆で検討し、排泄パターンや下剤のタイミング考えている。水分量や運動、マッサージ等も時に行っている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	パターンを把握しおこなっている。				
		g	おむつ（紙パンツ・パッドを含む）を使用する場合は、職員が一時的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	入居者さんや家族さんにお伺いをたて、希望を取り入れるような体制である。サイズ等こちらで選ぶこともあるが、家族負担は大きくならないように注意している。初めての方は本人にや家族へ提案しお伺いをたてて購入している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ（紙パンツ・パッドを含む）を適時使い分けている。	○	体型や排泄量に応じて使い分けている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。（薬に頼らない取り組み）	○	運動を行ったり、マッサージをしたり、腹部を温めたり、水分や乳製品を多めに摂る等の対応ではあるが、おこなっている。効果を得られない方もいる。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。（時間帯、長さ、回数、温度等）。	○	夕食後夜間に入浴される方へは時間をずらして入浴介助おこなっている。長さや温度等も配慮している。	◎		◎	夕食後の入浴の希望がある利用者にも対応しており、利用者一人ひとりの希望をできる限り考慮して、ゆっくりとくつろげる入浴時間になるよう支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	焦らすことはせず、ゆっくり入浴していただいている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来る事は本人にお願いし、本人のペースで動いてもらっている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	無理強いせず、拒否の背景をスタッフ全員で考え、気分が乗るように対応している。人を変え声掛けしたり、予定日を入れ替えたり柔軟に対応している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前の健康チェック必ず行う。血圧、検温、様子観察。入浴後状態変化にも注意し、水分補給も行う。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜間の観察を1時間ごとに行い、睡眠状態をカルテに記入している。昼夜逆転や夜間不眠等へは24時間チャートをつける。				生活リズムを整えたり、日中の過ごし方を工夫して夜間安眠できるように取り組んでいる。服薬している利用者もいるが、医師に相談しながら安易に薬剤に頼らない支援に努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	△	日中の過ごし方の工夫や夜間の不安を取り除くような声掛けを行っている。改善せず対応に困っている職員もいる。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	生活リズムや睡眠パターンを分析している、カルテの経過記録や情報収集等を検討材料にしている。医師とも相談している。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	車椅子の方や自分で居室に戻れない方へは、午前午後自室で休息する時間をとっている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望があれば家族へ電話し、安心して頂いている。暑中見舞いや年賀状の作成も行っている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	そのような場面があればおこなっている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	固定電話ではあるが、希望があれば職員が対応している。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人か家族に報告しお渡ししている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	心配を抱えている方は家族へお話し協力頂くようにしている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解している。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	希望時スーパーへ買い物に出かけたりしている。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	外部への買い物が可能なのは限られてしまっており、馴染みの関係のお店がある状態でもない。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	金銭管理は家族さんをお願いしており、個人での所持は基本的には行っていない。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	金銭はお預かりしていない。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。（預り金規程、出納帳の確認等）。	○	金銭はお預かりしていない。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	柔軟に対応出来るように取り組んでいる。可能な限り家族・利用者のニーズを尊重し応えている。	◎		◎	お墓参りや馴染みの美容室など、家族と一緒に出かけている。利用者や家族のニーズに柔軟に対応していきたいとの思いがある。

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者が家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽 に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をして いる。	△	季節の草花をもう少しこまめに植え替えができればと感じている。	◎	◎	◎	玄関のまわりに季節の草花を植えているなど、近隣の人達が事業所内に 入りやすいよう配慮している。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物 品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。 （天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要な ものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な 雰囲気をそぐような設えになっていないか等。）	○	内容の通りほぼできている。。	◎	○	◎	明るく清潔感のあるリビングにはソファが置かれ、ゆっくりくつろげる雰囲気 になるように工夫している。手の届く場所に筆記用具などが置かれ利用者 は自由に使うことができる。清掃が行き届き、換気も定期的に行われてお り、清潔感が漂っている。訪問日は七夕の笹に利用者と職員の書いた短冊 が飾られており、季節感を味わうことができた。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮 し、掃除も行き届いている。	○	清掃、換気、消臭、気をつけて行っている。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働き かける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生 活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫し ている。	○	季節を感じられる壁面飾りを意識している。			○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気 配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしてい る。	○	リビングでの座席配置も工夫し、憩いの場ではストレスをためない、安心して過ごせる配慮はして いる。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工 夫している。	○	脱衣場にのれんがあり、トイレにカーテンがあるが十分ではなく廊下から見える恐れはある。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている。	○	入居の際に家族へ馴染みの道具や、可能な限り居心地の良い居室の雰囲気作りをお願いしてい る。	◎		◎	居室には洗面台が備え付けられており、居室で整容ができる。馴染みのものや好みのものを持ち込んだり家族の写真を飾ったり、利用者それぞれが 居心地良く過ごせる居室になっている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかる こと」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送 れるように配慮や工夫をしている。	○	導線や安全に配慮し妨げにならないように工夫している。			○	トイレや居室の入口には利用者がわかりやすいような表示をしている。利 用者が自分で収納整理しやすいように、居室のタンスに衣類の種類別に記 入したシールを貼っている居室もあり、自立支援につながる工夫をしてい る。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討 し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫を している。	○	危険や混乱を招く可能性があるものについては、家族や利用者、職員で検討し対応を考えてい る。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつで も手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれて いる。（ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の 品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	△	出来る方にはそのようにできているが、（ほうきや家事道具）車椅子の方や身体機能が不自由な 方への工夫が足りない。				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟） の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解してい る。（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの 異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきら め・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメ リット等）	◎	夜間以外の施錠はしていない。	◎	◎	◎	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は玄関とユニットの入口 は自由に出入りできるようになっている。利用者が落ち着かなくなる時間を 把握して事前に対応したり、ユニット同士で協力して見守りを行うなど安全 確保に努めながら、自由な暮らしを支援している。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図って いる。安全を優先するために施錠を望む家族に対して は、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	ほとんどの家族に安心していただいている。またはご理解いただいている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理 的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなく てもすむよう工夫している（外出の察知、外出傾向の把 握、近所の理解・協力の促進等）。	◎	他部署との連携、入り口に鈴を付けている。運営推進会議で近隣住民へ説明、見守りの眼をお願い している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や 病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	既往歴や服薬内容等、入居時に洗い出し周知している。定期診察にての診察内容や内服薬変更等も申し送っている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	早め早めの異常を察知し、連絡、相談がスピーディーにおこなえている。往診や外来にて検査行い、協力病院との連携も密である。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	できている。				
31	かかりつけ医等の 受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	昔馴染みのかかりつけ医を希望される方は引き続き診察が受けられるように協力している。病状に合わせ適した病院を家族へ案内し家族・利用者と共に方向性を決めている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	要所要所では往診時に家族を交え主治医との話し合いを行い、意向を確認しその後の治療方針へ反映している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	可能な限り迅速に電話連絡をし、状況や結果報告している。				
32	入退院時の医療機関との 連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	本人の生活リズムや習慣は必ず伝えるようにしている。情報は細かく伝えている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	退院後のフォローがスムーズに行くよう、連絡は密にとっている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	行っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	常勤の看護師や同建物内の看護師に相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	常勤看護師が24時間連絡できる体制にある。主治医との連絡も可能である。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	週に2回は協力病院のドクターが事業所にきており、変わった様子が見られればすぐ受診できる体制がある。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬剤の内容はカルテにファイリングしており、変更や追加があれば薬の内容や状態について細かく申し送っている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	細心の注意を払い、投薬をおこなっている。誤薬もほとんどない。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	新しい薬や、睡眠薬や向精神薬等内服時は考えられる副作用について注意するようつたえている。カルテに記入して様子観察行っている。異常があれば速やかに管理者へ報告している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	看護師を中心にし状態の変化を細かく主治医に報告することで、不要な薬の中止等へもつながる。様子はカルテに記録して家族へも連絡している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時、状態変化時、その都度確認している。				重度化や終末期についての意向を利用者や家族から聞き取り、職員や主治医、医療関係者と情報や方針を共有して、協力体制を取りながら看取り支援を行っている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	主治医とは密に情報共有しており、職員を含め状況、方針も共有している。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	グループホームあわいでの看取りが過去に1件といざという時の不安はあるが、力量への不安はない。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	医療行為のみならず、できないことはお伝えしている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	医療機関と密に連携をとりながら、変化に迅速に対応出来るようにしている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。（心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等）	○	家族の不安、特別な事情等、素直な声が聴けるような雰囲気づくりを考えながら、安心して頂けるような声掛け、誠実な説明を行っている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症（ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等）や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	グループホーム内で毎年勉強会をしている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	マニュアル整備しており、それを基に勉強会もおこなっている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	注意喚起記事や注意報が発令されれば通達速報行い、施設内に注意書き掲示する。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	法人内で情報共有している。パソコン内にて通達確認。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	手洗いうがい励行できている。玄関ホールにある手洗い場に消毒、マスク、うがい用のコップ常設している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	ご家族が来られた時には、一緒に話をしながらご本人を中心にコミュニケーションを図り、関係作りに努めている。				定期的に事業所の行事や家族会の案内を行っており、行事の時は一緒に食事をするなど、利用者や家族同士が交流できる機会を作っている。毎月面会に来られる家族も多いが、事業所便りの送付や電話連絡などで、その都度利用者の様子や事業所の行事、職員の紹介などを行っている。家族が話しやすいように職員から声かけを行うなど、何でも気軽に話してもらえるよう雰囲気づくりに努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	ご家族が心地よく過ごせるように、挨拶、声掛けを行い、居室やリビングで寛いで頂けるように、イスや飲み物を用意している。宿泊されることはないが、朝や夜でも時間を気にせず面会に来ていた。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	グループホームでの季節行事や、施設全体での行事をご案内し、一緒に参加して頂けるような機会を作っている。	◎		◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	年4回の「あわい便り」をご家族に送付しており、日頃の様子が分かる写真など多く取り入れ、元気な様子が伝わるように工夫している。	○		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	ご家族の知りたいことや不安に思われている事は、聞かれたときにその都度お答えし、報告が必要な事は速やかに報告を行っている。家族会でも、事業報告、行事報告他、質疑応答を行っている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	ご家族が、ご本人との対応や理解に不安や困難を感じておられる時には、自分たちの分かる範囲で、ご本人の気持ちを考え伝えたり、ご家族の負担にならないよう気をつけながら、関係を支援している。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	行事のご案内や、職員の異動・退職、新人職員の紹介等をその都度行えている。	×		○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	家族会を年2回開催し、ご家族同士の関わりが持てる場を提供している。家族会の後に、昼食のお弁当やバイキングを用意し、和んでいただけるように工夫している。それ以外でも行事で会食をする機会を設けている。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	○	転倒や、急変など起こり得るリスクは説明し、理解を得るようにしている。できる限りご本人の意思を尊重し、行動を抑制したり、禁止したりはしないよう対応策を考えている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	ご家族に、積極的に話しかけ最近の様子をお伝えしたり、「何か、ご希望はありませんか?」と問いかけることで、何でも気軽に話してもらえるように、和やかな雰囲気作りを心がけている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	行っている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	家族の安心を第一考え、先々の不安を取り除けるような、提案(法人内でのアフターフォロー)をお伝えし、納得と安心をして頂いた上で退居していただいている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	行っている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいや ネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する 市町の日常生活圏域、 自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	説明会、行っている。運営推進会議や行事の場で。		◎		事業所の行事は案内を行い、毎年開設記念祭や新年会の餅つきなど多数の地域の人達の参加がある。地域行事への参加や、近隣の人と一緒に畑作業をしたり日常的に地域とつながりが持てるように関わりを深めている。事業所の2階にある会議室を地域に開放したり、地域に溶け込んだ事業所であるよう心がけている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	○	行事の度に案内状を直接渡して回ったり、地域からの行事案内があれば職員が参加したり、利用者と共に参加している。		○	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	年々と定着してきているとは感じる。近隣住民の協力を得ながら行事を行っている。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	○	毎月の介護教室やイベント行事等の案内をしている。インターネットでみて見学に来られることもある。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	毎日ではないがお向かいやお隣のかたと、顔を合わせたら言葉を交わしたり、農作業の話をしたりしている。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	○	様々な方面からボランティアにて来て頂き、行事を盛り上げて頂き利用者に喜んで頂いている。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。						
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	○	地区の交番や消防団の方々が訪問してくださってお話をしてくださる。公民館祭りへの出展や、運営推進会議には公民館長もご招待している。				
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	利用者の参加はできていない。家族や地域住民の参加はある。	×		△	スライドを使用して、事業所の評価等取組みや利用者の様子を分かりやすく伝えており、報告や意見交換を行っている。会議で出された意見は事業所で検討して、サービス向上に活かし状況や結果を報告している。家族や地域の方の参加のほかに、今後は利用者も参加できるように声かけを行っていく予定である。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	○	報告行っている。。			○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議で出された意見等は現場に持ち帰り活かし、次回必ず報告している。		×	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	日程や時間、問題ないと思われます。家族の参加増を目標に声掛け継続中		◎		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	グループホーム玄関ホールに置いている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	職員一人一人が理念を理解し、取り組んでいる				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	入居の際に理念の説明を行っている。	○	×		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修計画書を基に外部研修へ参加するようにしている。上司が個々に合わせた内容を案内する。PC上に研修案内あり。				代表者は職員が意欲を持ってスキルアップしながら、働きやすい環境で安心して仕事に取り組めるよう職場環境づくりに努めている。職員の意見が管理者を通して代表者に伝えられる体制になっており、職員の声を大切にしている。法人全体での親睦会が定期的に行われ、代表者や職員同士の交流が持てるような機会を作っており、職員がいい関係を築けるよう配慮している。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	年間計画を立て、月1回はOJTおこなっている。それとは別に法人全体の接遇研修会も年2回行っている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	理念にある、「やりがいのある職場づくり」を基本とし、職員の希望を取り入れながら、働きやすい職場である。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	管理者は地域包括支援センター主催の活動に参加しているが、一般職員の参加は研修等に限られる。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	年2回の面談以外にもその都度話をよく聞いてくれている。	○	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	定期的に勉強会にて理解を深めている。				どのような行為が虐待や心身的に不適切なケアにあたるのか、職員全員が理解しており、対応方法についても職員全員で共有している。言葉遣いや声の大きさなど、利用者に不快な印象を与えていないか管理者や職員同士で意識して確認している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	職員の声はすぐ届く環境であり、日々のケアも一緒に考えている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	虐待やパワハラ等、職員全員で高い意識を持ち職務についている。			◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	管理者会議でもストレスには気を配っており、問題があれば、意見を交換するようにして対応している。				
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	それらの項目や詳細についても勉強会にて学んでいる。マニュアルを基に勉強会を実施。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	3ヶ月に1回、身体拘束適正化検討委員会を開いている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	行っている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する 制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	理解している職員としていない職員とがいる。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	相談があれば支援行っていく。パンフレット等分かりやすく説明できればと思う。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	ケースが少なく実際に連携はとっていない。必要であれば迅速にとっていく。				
46	急変や事故発生時の 備え・事故防止の 取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアル整備しており、勉強会等にて周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	マニュアル整備しており、勉強会等にて周知している。経験豊富な職員である。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	どちらも記入しユニット会で検討し再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	安全面は十分に配慮しケアに反映している。病状の変化や副作用の可能性等も検討、周知している。				
47	苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルに沿って、迅速丁寧に対応している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	そのようにおこなっている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	誤解の無いように、誠意をもって対応している。内容は苦情処理ファイルに記録を綴じている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	玄関ロビーに意見箱の設置している。普段のコミュニケーションの中から聞き取りおこなっている。			◎	利用者の意見や要望は普段の関わりの中で聞くことが多く、内容や対応を職員で共有している。家族の意見は面会や電話連絡の際などに伺っており、意見箱に入れる用紙もアンケート形式にするなど要望を表しやすいように工夫している。管理者は職員と一緒に現場にすることが多く、職員は要望や提案を伝えやすいと感じている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	玄関ロビーに意見箱の設置している。家族会2回/年	○		◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	契約の際に説明し情報提供している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	面談を通じて意見を聞いてくださっている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	同じ現場で仕事をし、意見や提案があれば皆で協議しよりよい施設になるように検討している。			◎	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	自己評価表を用いて行っている。				サービス評価の評価結果や目標達成計画を運営推進会議や家族会で報告しているが、家族や地域の人達に評価の目的や内容についての周知が充分であるかわからない部分があるため、改めて説明を行い取組みのモニターをしてもらえるよう努めて欲しい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	自己評価と上司評価をもとに面談を行い課題点を双方で確認し合い、解決へ向けての方策を考えている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	事業所の質向上につながると考えている。目標達成へ向けてとりくんでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議や家族会でお伝えしている。	△	×	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	確認している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	原子力災害を想定していない。				地域の消防団や消防署、併設の事業所と連携して様々な想定で避難訓練を行っている。地域の人達の参加もあり、課題や問題点などを話し合って協力体制を構築している。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	行っている。2回/年。避難訓練(日中・夜間)				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	防火管理者が中心となり行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	地域の消防団・消防署・隣接している老健等と必ず連携を取りながら訓練行っている。近隣住民も見学にきたり意見交換も行っている。	×	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	隣の施設への応援要請に応え参加している。今後地域での災害訓練があれば参加予定。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	地域住民や利用者・家族を対象に介護教室を1回/月開催している。毎回講師やテーマを変え、冒頭に脳トレをおこなっている。				高齢者や家族からの相談支援に取り組んでおり、地域の相談ニーズに対応している。法人施設と協力して地域の人達を招いての行事やボランティアの受け入れなどを行っている。今後は市や地域包括支援センター等関係機関との連携を密にし、積極的に地域活動を行うなどの取組みに期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	相談があれば支援を行っている。		×	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	二階の会議室を開放し多目的に地域住民に活用してもらえるように説明している。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	中学生の職場体験の受け入れは行っているが、実習生の受け入れ事例はない。受け入れる体制はある。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	地域清掃、地域の福祉祭りや公民館祭りへは出店している。今後は他の関係機関と連携を密にし地域活動が行えるようにしたい。			△	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年7月23日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 13名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3890101102
事業所名	グループホームあわい
(ユニット名)	ほのかユニット
記入者(管理者)	
氏 名	横山啓介
自己評価作成日	30 年 7 月 7日

【事業所理念】 ・お年寄りに対する尊敬の気持ち ・やりがいのある職場づくり ・地域社会への貢献	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 口腔ケアの充実・レベルアップを目標に内、外部への研修参加や歯科医からのアドバイスを受けスキルアップを目指した。職員の口腔ケア に対しての意識と、利用者の口腔内環境改善へつながった。 玄関ホールへ運営推進会議ファイルをおいて家族が閲覧できるようにした。面会時や電話にて開催のお知らせをし参加につなげていく。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 高齢者総合福祉施設として認知症デイサービスや小規模特別養護老人ホームなどが併設 されている開設5年目を迎えた事業所である。法人の母体は長年地域医療や福祉に貢献し てきた実績があり、利用者や家族、地域からの信頼がある。職員は向上心を持って安心し て働くことができる環境であり、管理者や職員同士が良好なチームワークを築きながら和や かな雰囲気の中で、利用者を尊重し思いや笑顔を大切にしたケアを行っている。併設施設 と一緒にボランティアの受け入れや、行事やレクリエーションなど様々な取り組みを行って おり、利用者の楽しみにつながる支援を実施している。
--	--	--

評 価 結 果 表

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、 意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	利用者さんがどのように暮らしたいかという希望や思いを大切に、ケアプランに取り入れるようにしている。	◎		◎	利用者や家族から意向や暮らし方の希望を聞いたり、日常生活の関わりの中で知り得た利用者の思いなどを把握して、職員全員が情報を共有するように努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人の意見が確認出来ない時は、ご家族さんからの意見を参考にしたり、職員が集まり話し合うことで「本人が望まれていること」を考える。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	ご家族、親せきの他に、面会に来られた知人や友人と共に、本人の思いを話し合うことがある。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	ケアプラン作成時に、本人及び家族の生活に対する意向を記入した「居宅サービス計画書(1)」を記録している。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	本人の思いを見落とさないよう、普段の生活の様子からも変化、要望がある時はその都度聞き入れられるよう気をつけている。				
2	これまでの暮らしや 現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所時に、センター方式を用いた用紙へ記入していき、付け足しをしながら、これまでの暮らし方やこだわりを理解していけるようにしている。			○	利用者や家族、入居前に利用していたサービス事業所などから生活歴やこだわりなどを聞き取っている。情報は追加の部分もわかるように記録し、馴染みの暮らし方が継続できるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	できること・できないことを見極め、その時の状況に応じた関わり方でケアに当たっている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	本人が不安になる場面があれば、それを把握しておき、なるべくそのような場面を作らないように、そのような場所に行かれないように気をつけている。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	本人にとって不安、ストレスとなっているものを職員個々が考え、話し合いながらその状況が改善できるように努めている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	利用者一人ひとりで生活リズムや日々の変化があり、それぞれに違うので、それらを理解した上で、関わるようにしている。				
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人とご家族の他、友人や知人の意見や要望も取り入れながら。職員含め担当者会議として話し合いを行っている。			○	担当者会議で利用者や家族、職員や関係者と話し合って何を必要としているか利用者の目線で検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	本人がより良く暮らすための支援を行えるようチームで検討している。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	担当者会議を行い、検討した後も、残された課題として今後、取り組むべき課題を明らかにしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の思い、意向など希望が取り入れられ、考えられている。	/	/	/	利用者毎の担当職員と計画作成担当者が意見やアイデアを出し合い、管理者と介護支援専門員が、利用者や家族の意向等が反映されているかどうか確認しながら介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	計画作成時には、本人と家族等含め、その他の関係者が意見やアイデアを出し合い、本人にとってより良い生活が送れるよう介護計画に反映させている。	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	その方が慣れ親しんだ暮らし方や、日々の過ごし方を尊重しながら、現在の状態に応じて無理のない安楽な生活が送れるように配慮している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	ご家族、地域の人たちの協力を得て、成り立つ介護計画となっている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	利用者一人ひとりの介護計画は、ユニット会にて職員間に把握され、共有できるようにしている。	/	/	◎	介護計画の支援内容に沿ってケアを行うことができたか、利用者毎に毎日確認して記録することで、職員は利用者一人ひとりの介護計画の内容を理解し職員間で状況確認ができるようになっている。利用者毎に日々の暮らしでの言葉や表情等について具体的に記録している。利用者の様子や職員の気づきなどが経過記録に記入されており、日々の支援につなげることができている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	ケアプランの内容で、日々ケアが実施出来たかを確認するチェック表があり、○×によって毎日評価し、確実に支援が実施できるようにしている。	/	/	◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	一人ひとりについて、カルテの経過記録に、具体的な日々の暮らしの様子を、言葉や表情等交えながら具体的に記入している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	一人ひとりの記録には、職員の気づきや工夫したことも記入している。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	入所後1ヶ月、その後は3ヶ月、6カ月と定期的にケアプランの見直しを行っている。	/	/	○	介護計画は入居1か月後に見直し、その後は3か月毎に見直している。状態に変化が見られない場合でも、毎月モニタリングを行うことで現状確認を行っている。利用者に変化があれば、家族等を交え介護計画の見直しについて話し合い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月月末には、担当者がケアプランの実施状況を確認し、評価を行い、カルテに記録することとなっている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	本人の心身状態、暮らしの状態に変化が生じた場合には、その都度、関係者を交えてケアプラン見直しを行い、状態に応じて新たなプランを作成している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	ユニット会では定期的な見直しの時期に、ケアプランの見直し、職員間で意見を求め合い、参考にしている。緊急、必要時は会議を開き、話し合いの場を作っている。	/	/	○	日々の申し送りやユニット会議で利用者について話し合い、情報共有に努めている。参加できなかった職員は、会議録を確認し理解した上でサインし共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	会議では、職員がお互いに意見を出しやすい雰囲気を作り、相手の情報や考えをよく聴き、自分の意見も伝えるようにしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	可能な限り多くの職員が参加できるように、開催日時は日中(第4木曜日 14:30～)に決め、ユニットのスタッフルームにて実施している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	会議で話し合われた内容は、「会議録」として記録し、全職員に確認してもらうようにしている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	職員間での情報伝達は、口頭で伝える以外に、伝達ノートを作り、伝達事項の記入と、確認後のサイン記入を行い、情報共有を行っている。	/	/	○	会議録や伝達ノートを活用し、確実な情報伝達ができるような仕組みを作っている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	夜勤明けの職員から早出職員へ、早出職員から遅出職員へ、遅出職員から夜勤者へと申し送り、情報伝達を行い、重要な事項が必ず全ての職員に伝えられるようにしている。	○	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	会話の中から今何をしたいか、何か気になることはないかを察し、その時に出来る事、その日に提供出来る事は実現する。	/	/	/	日常生活の中で、入浴日時や外出先など、利用者が自己決定できる機会を作っている。おやつの内容も数種類の中から好みのものを選べるようにしている。利用者の笑顔や意欲が引き出せるような声かけや雰囲気づくりを大切に支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	買い物等の選ぶ楽しみ、お手伝いでのそれぞれ好みの役割等、意思を尊重している。	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	利用者が想いや希望を表せるような工夫や働きかけが足りない。自分で決めたり、納得のいくような対応は心掛け実行している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にした支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	限られた時間内ではあるが、満足いくようなペースで行っている。起床や食事無理強いしていない。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	ジョーダンも織り交ぜ笑顔を引き出せるように努めている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	経験豊富な職員であり、日頃からよく観察している。家族やセンター方式等より情報を集め様々な角度から意見をだしあう。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にした言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	内部勉強会にて、認知症の理解・プライバシー保護・職業倫理を学んで、常に意識できるよう教育を行っている。	○	○	◎	職員は定期的に勉強会で人権や尊厳について学ぶ機会がある。利用者を尊重した丁寧な声かけを行うなど支援に努めている。居室は利用者のプライベートな空間であることを理解し、入室時の声かけは徹底して取り組んでいる。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	配慮しているが、時になれ合いが出てしまい配慮に欠ける場面がある。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	声掛けの大切さ、本人に合わせたペースをよく理解している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	明らかに居室不在と分かっても必ずノックは行う。ほとんどの職員が声掛け行い入室している。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	プライバシー保護・個人情報の保護の勉強会を行っている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	理念にもある、「人生の大先輩」を一人一人が念頭に置いている。入居者の自信につながるよう「助かります」「ありがとうございます」は欠かさない。	/	/	/	利用者一人ひとりの性格や状況などを考慮し、不穏になりそうなことがあれば、職員が必ず間に入り未然に防ぐよう努め良い関係が築けている。利用者同士の関わりを大事にしながら、利用者全員が気持ちよく過ごせるような環境づくりに取り組んでいる。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	職員一人一人が感じている。利用者さん同士でもお互いさまと助け合い、互いの大切さをを分かっ ておられる。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	日頃のケアを通し、利用者の性格、行動を十分把握し、トラブルにならないよう配慮している。必ず間に入り良い関係作りに努めている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	必ず素早く間にはいるように心掛け実行している。必要であると判断すれば家族の協力もお願いし話を聞いて頂く。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	センター方式により生活歴等の情報収集しているが、家族によったら情報不足があったり職員の認識不足もある。聞き取りにて収集してはいる。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	センター方式により生活歴等の情報収集しているが、家族によったら情報不足があったり職員の認識不足もある。聞き取りにて収集してはいる。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	親しい知人の方と一緒に、食事に出かけられる機会がある。他にもお墓参りや法事等、ご家族と共にご自宅等への一時外出や、お出かけされる機会がある。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	接遇には力を入れており、気持ちの良い挨拶、お話し、おもてなし(お飲み物・椅子等)を素早く行っている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	洗濯物干しや天気の良い日の屋上での日光浴、お散歩へ行く。	○	○	○	定期的に買い物や散歩、外食のほか今年は事業所全体で歌謡ショーに出かけており、利用者の希望に沿いながら積極的に外出支援を行っている。重度の利用者は屋上で外気浴をする程度なので、時には散歩するなど気分転換にも取り組んで欲しい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	外出の頻度を増やすよう取り組んでいる。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	車椅子にて花見観賞や日光浴を行っている。	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	外食や、野球観戦、演劇を見に行く計画を立てている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症や行動心理状況についての勉強を行い理解はしている。要因を紐解き様々なケアを出している。	/	/	/	居室のタンスに利用者が理解しやすいように衣類の種類を記したシールを貼り、自分で衣類を整理収納しやすい工夫をしている。下肢筋力の低下防止のための廊下歩行や、発語を促す発声練習等、心身機能の維持向上に取り組めるような環境づくりにも配慮した支援に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	△	理解できている職員はいるが、効果的な取り組みとはいいい難い。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	本人にやる気が湧くような声掛けや励ましを行い、出来る事を見極めながら一緒に頑張るように援助している。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	入居前の情報収集や入居後のセンター方式での分析を行っている。	/	/	/	茶道の経験のある利用者にお茶をたててもらいお茶会を毎月行っているほか、普段の生活の中でもゴミ捨てや掃除など役割を持ってもらうことで、張り合いのある生活につなげている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	工夫が足りない。バリエーションがなく、もっと脳が活性化するような内容だったり、自然とやる気が湧くような体操があればと思う。	○	△	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	あわい地区の公民館祭りへ製作品を出展した。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	それぞれの好みは必ず取り入れる。このスタイリングでいいか本人の感想も聞くようにしている。自分で洋服を選んでもらう。	/	/	/	整容の乱れなどがあってもあからさまな声かけではなく、利用者のプライドを大切にした声かけに配慮している。服装は利用者の好みを尊重しながら、季節に合ったものを選んでいる。定期的に美容師の訪問もあり、希望があれば毛染めもできるため、重度の利用者も含め入居前のおしゃれを継続して行うことができる。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	それぞれの好みは必ず取り入れる。本人の意見・感想も聞くようにしている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	馴染みの服や家族へ聞き取り情報収集している。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出の時は家族さんへも相談しながら選んでいる。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にせずさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	さりげなく声掛けし、整容ケアには十分配慮している。5Sの取り組み(きれいなお年寄り)意識している。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	可能な限り希望を聞き、馴染みの美容院が外にある方は家族と外出もされる。カラーやパーマ希望時に行えるようにしている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	着るものの調節には注意している。循環の悪い方には保温に気をつけ、四肢や顔色の状態は気をつけている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食の大切さ楽しみは皆が理解している。	/	/	/	調理の下ごしらえなど、できることは利用者と一緒にやっている。食べたいものを聞いて、食事の好みやアレルギーなど把握している。職員が竹を用意して流しそうめんをするなど、行事食や食べることを楽しんでもらえるような工夫をしている。食器類は馴染みのものや利用者に合ったものを用意している。職員はなるべく利用者と一緒に食卓を囲んで、和やかな食事の時間になるように配慮している。重度の利用者も調理の音や匂いを感じてもらったり、献立の話をし食事を楽しみにしてもらっている。献立は法人内で各事業所が持ち回りで立てており、栄養士にも相談し利用者がバランスの取れた栄養が摂れるよう支援している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	食材の下処理を一緒におこなっている。食べたい物を聴き注文に加えている。	/	/	◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	得意な方にはお好み焼きやホットケーキを御願ひしたり、自信へとつながるように感謝の言葉も必ず添える。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	センター方式、日々のコミュニケーションの中から情報を得、申し送りにて共有している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	法人統一メニューであり、グループホームあわいが献立を立てるのは6月、7月分である。サイドメニューをなにかつけたり、味付けを少し変えたり個々のニーズにこたえている。行事等では献立も変更する。	/	/	◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いんどりや器の工夫等)	○	誤嚥と一人一人の食事形態には気をつけ、利用者が美味しいと感じるようにみじん切りにしたり、とろみを加減したり、している。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	馴染みのものを用意していただいている。	/	/	◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	一緒に食事している。サポートも素早く行っている。	/	/	○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	匂いや音、話を通して楽しみにまっていただけしている。	○	/	◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	△	カロリー計算までは行っていないが食事の摂取量、状態観察、水分量のチェック行い、きちんと栄養摂取できるよう考えている。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	脱水の危険は理解しており、水分チェックもしている。必要時はエンシュア・リキッド(栄養剤)処方して頂いたり、アクチット輸液の点滴の指示を受けている。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	調理の得意、不得意が職員間でありアイデアも声掛け合いながら協力して作っている。献立や季節の食材等栄養士に相談している。	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	係を決め、冷蔵庫や食材の在庫の確認を頻回にしている。生ものは使い捨てのまな板使用や、消毒の徹底により食中毒防止している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの外部勉強会へ行き、自施設にて振り返りの伝達講義をおこなっている。				自分で歯磨きを行う利用者に対しては、口腔内の状況が十分に把握できないと感じており、今後は利用者全員の口腔内の健康状態の把握に努めて欲しい。歯科医の往診があり、口腔内チェックや異常時の処置など迅速に対応しているが、今後は毎日口腔内の清潔保持ができるよう職員全員で取り組むことが望まれる。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況（虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等）について把握している。	△	自分で歯磨きされる方、拒否される方への口腔内の状態確認が不十分な時がある。			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	研修等あれば参加している。往診の先生に助言やアドバイスをいただき、実施している。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	出来るところはして頂き、仕上げは行い、消毒も欠かさない。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。（歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等）	△	自分でされる方への状態確認（清潔確認）が不十分である。			△	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	迅速に対応している。協力歯科（光洋台DC）より往診あり。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	可能な限り自然な形で排泄に努めている。安易に紙パンツ使用しない、オムツの使用も身体状態を家族を含めて慎重に検討している。				利用者一人ひとりの状態に応じて排泄パターンを把握しながら、なるべくオムツを使用せず、トイレで気持ちよく排泄できるよう取り組んでいる。法人の病院から入居される利用者はリハビリの先生とも相談しながら、排泄自立に努めるなど、個々の状態に応じた支援に取り組んでいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	グループホームでの勉強会をおこなっている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。（間隔、量、排尿・排便の兆候等）	○	排泄状況チェック表にて把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	必要性についても見直ししたり、状態に応じてオムツはずしへの意識は持っている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	看護師にアドバイスをもらいながら、皆で検討し、排泄パターンや下剤のタイミング考えている。水分量や運動、マッサージ等も時に行っている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	パターンを把握しおこなっている。				
		g	おむつ（紙パンツ・パッドを含む）を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	入居者さんや家族さんにお伺いをたて、希望を取り入れるような体制である。サイズ等こちらで選ぶこともあるが、家族負担は大きくならないように注意している。初めての方は本人にや家族へ提案しお伺いをたてて購入している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ（紙パンツ・パッドを含む）を適時使い分けている。	○	体型や排泄量に応じて使い分けている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。（薬に頼らない取り組み）	○	運動を行ったり、マッサージをしたり、腹部を温めたり、水分や乳製品を多めに摂る等の対応ではあるが、おこなっている。効果を得られない方もいる。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。（時間帯、長さ、回数、温度等）。	○	夕食後夜間に入浴される方へは時間をずらして入浴介助おこなっている。長さや温度等も配慮している。	◎		◎	夕食後の入浴の希望がある利用者にも対応しており、利用者一人ひとりの希望をできる限り考慮して、ゆっくりとくつろげる入浴時間になるよう支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	焦らすことはせず、ゆっくり入浴していただいている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来る事は本人にお願いし、本人のペースで動いてもらっている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	無理強いせず、拒否の背景をスタッフ全員で考え、気分が乗るように対応している。人を変え声掛けしたり、予定日を入れ替えたり柔軟に対応している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前の健康チェック必ず行う。血圧、検温、様子観察。入浴後状態変化にも注意し、水分補給も行う。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜間の観察を1時間ごとに行い、睡眠状態をカルテに記入している。昼夜逆転や夜間不眠等へは24時間チャートをつける。				生活リズムを整えたり、日中の過ごし方を工夫して夜間安眠できるように取り組んでいる。服薬している利用者もいるが、医師に相談しながら安易に薬剤に頼らない支援に努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	△	日中の過ごし方の工夫や夜間の不安を取り除くような声掛け行っている。が改善せず対応に困っている職員もいる。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	生活リズムや睡眠パターンを分析している、カルテの経過記録や情報収集等を検討材料にしている。医師とも相談している。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	車椅子の方や自分で居室に戻れない方へは、午前午後自室で休息する時間をとっている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望があれば家族へ電話し、安心して頂いている。暑中見舞いや年賀状の作成も行っている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	そのような場面があればおこなっている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	固定電話ではあるが、希望があれば職員が対応している。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人か家族に報告しお渡ししている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	心配を抱えている方は家族へお話し協力頂くようにしている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解している。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	希望時スーパーへ買い物に出かけたりしている。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	外部への買い物が可能なのは限られてしまっており、馴染みの関係のお店がある状態でもない。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	金銭管理は家族さんをお願いしており、個人での所持は基本的には行っていない。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	金銭はお預かりしていない。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。（預り金規程、出納帳の確認等）。	○	金銭はお預かりしていない。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	柔軟に対応出来るように取り組んでいる。可能な限り家族・利用者のニーズを尊重し応えている。	◎		◎	お墓参りや馴染みの美容室など、家族と一緒に出かけている。利用者や家族のニーズに柔軟に対応していきたいとの思いがある。

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽 に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をして いる。	△	季節の草花をもう少しこまめに植え替えができればと感じている。	◎	◎	◎	玄関のまわりに季節の草花を植えているなど、近隣の人達が事業所内に 入りやすいよう配慮している。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物 品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。 （天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要な ものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な 雰囲気をそぐような設えになっていないか等。）	○	内容の通りほぼできていると思います。	◎	○	◎	明るく清潔感のあるリビングにはソファが置かれ、ゆっくりくつろげる雰囲気 になるように工夫している。手の届く場所に筆記用具などが置かれ利用者 は自由に使うことができる。清掃が行き届き、換気も定期的に行われてお り、清潔感が漂っている。訪問日は七夕の笹に利用者と職員の書いた短冊 が飾られており、季節感を味わうことができた。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮 し、掃除も行き届いている。	○	清掃、換気、消臭、気をつけて行っている。	/	/	◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働き かける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生 活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫し ている。	○	季節を感じられる壁面飾りを意識している。	/	/	○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気 配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしてい る。	○	リビングでの座席配置も工夫し、憩いの場ではストレスをためない、安心して過ごせる配慮はして いる。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工 夫している。	○	脱衣場にのれんがあり、トイレにカーテンがあるが十分ではなく廊下から見える恐れはある。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている。	○	入居の際に家族へ馴染みの道具や、可能な限り居心地の良い居室の雰囲気作りをお願いしてい る。	◎	/	◎	居室には洗面台が備え付けられており、居室で整容ができる。馴染みのものや好みのものを持ち込んだり家族の写真を飾ったり、利用者それぞれが 居心地良く過ごせる居室になっている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかる こと」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送 れるように配慮や工夫をしている。	○	導線や安全に配慮し妨げにならないように工夫している。	/	/	○	トイレや居室の入口には利用者がわかりやすいような表示をしている。利 用者が自分で収納整理しやすいように、居室のタンスに衣類の種類別に記 入したシールを貼っている居室もあり、自立支援につながる工夫をしてい る。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討 し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫を している。	○	危険や混乱を招く可能性があるものについては、家族や利用者、職員で検討し対応を考えてい る。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつで も手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれて いる。（ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の 品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	△	出来る方にはそのようにできているが、（ほうきや家事道具）車椅子の方や身体機能が不自由な 方への工夫が足りない。	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟） の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解してい る。（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの 異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきら め・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメ リット等）	◎	夜間以外の施錠はしていない。	◎	◎	◎	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は玄関とユニットの入口 は自由に出入りできるようになっている。利用者が落ち着かなくなる時間を 把握して事前に対応したり、ユニット同士で協力して見守りを行うなど安全 確保に努めながら、自由な暮らしを支援している。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っ ている。安全を優先するために施錠を望む家族に対して は、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	ほとんどの家族に安心していただいている。またはご理解いただいている。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理 的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなく てもすむよう工夫している（外出の察知、外出傾向の把 握、近所の理解・協力の促進等）。	◎	他部署との連携、入り口に鈴を付けている。運営推進会議で近隣住民へ説明、見守りの眼をお願いしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	既往歴や服薬内容等、入居時に洗い出し周知している。定期診察にての診察内容や内服薬変更等も申し送っている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	早め早めの異常を察知し、連絡、相談がスピーディーにおこなえている。往診や外来にて検査行い、協力病院との連携も密である。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	できている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	昔馴染みのかかりつけ医を希望される方は引き続き診察が受けられるように協力している。病状に合わせ適した病院を家族へ案内し家族・利用者と共に方向性を決めている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	要所要所では往診時に家族を交え主治医との話し合いを行い、意向を確認しその後の治療方針へ反映している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	可能な限り迅速に電話連絡をし、状況や結果報告している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	本人の生活リズムや習慣は必ず伝えるようにしている。情報は細かく伝えている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	退院後のフォローがスムーズに行くよう、連絡は密にとっている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	行っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	常勤の看護師や同建物内の看護師に相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	常勤看護師が24時間連絡できる体制にある。主治医との連絡も可能である。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	週に2回は協力病院のドクターが事業所にきており、変わった様子が見られればすぐ受診できる体制がある。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬剤の内容はカルテにファイリングしており、変更や追加があれば薬の内容や状態について細かく申し送っている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	細心の注意を払い、投薬をおこなっている。誤薬もほとんどない。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	新しい薬や、睡眠薬や向精神薬等内服時は考えられる副作用について注意するようつたえている。カルテに記入して様子観察行っている。異常があれば速やかに管理者へ報告している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	看護師を中心にし状態の変化を細かく主治医に報告することで、不要な薬の中止等へもつながる。様子はカルテに記録して家族へも連絡している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時、状態変化時、その都度確認している。				重度化や終末期についての意向を利用者や家族から聞き取り、職員や主治医、医療関係者と情報や方針を共有して、協力体制を取りながら看取り支援を行っている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	主治医とは密に情報共有しており、職員を含め状況、方針も共有している。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の方職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	グループホームあわいでの看取りが過去に1件といざという時の不安はあるが、力量への不安はない。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	医療行為のみならず、できないことはお伝えしている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	医療機関と密に連携をとりながら、変化に迅速に対応出来るようにしている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。（心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等）	○	家族の不安、特別な事情等、素直な声が聴けるような雰囲気づくりを考えながら、安心して頂けるような声掛け、誠実な説明を行っている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症（ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等）や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	グループホーム内で毎年勉強会をしている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	マニュアル整備しており、それを基に勉強会もおこなっている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	注意喚起記事や注意報が発令されれば通達速報行い、施設内に注意書き掲示する。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	法人内で情報共有している。パソコン内にて通達確認。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	手洗いうがい励行できている。玄関ホールにある手洗い場に消毒、マスク、うがい用のコップ常設している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	ご家族が来られた時には、一緒に話をしながらご本人を中心にコミュニケーションを図り、関係作りに努めている。				定期的に事業所の行事や家族会の案内を行っており、行事の時は一緒に食事をするなど、利用者や家族同士が交流できる機会を作っている。毎月面会に来られる家族も多いが、事業所便りの送付や電話連絡などで、その都度利用者の様子や事業所の行事、職員の紹介などを行っている。家族が話しやすいように職員から声かけを行うなど、何でも気軽に話してもらえるよう雰囲気づくりに努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	ご家族が心地よく過ごせるように、挨拶、声掛けを行い、居室やリビングで寛いで頂けるように、イスや飲み物を用意している。宿泊されることはないが、朝や夜でも時間を気にせず面会に来ていた				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	グループホームでの季節行事や、施設全体での行事をご案内し、一緒に参加して頂けるような機会を作っている。	◎		◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	年4回の「あわい便り」をご家族に送付しており、日頃の様子が分かる写真など多く取り入れ、元気な様子が伝わるように工夫している。	○		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	ご家族の知りたいことや不安に思われている事は、聞かれたときにその都度お答えし、報告が必要な事は速やかに報告を行っている。家族会でも、事業報告、行事報告他、質疑応答を行っている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	ご家族が、ご本人との対応や理解に不安や困難を感じておられる時には、自分たちの分かる範囲で、ご本人の気持ちを考え伝えたり、ご家族の負担にならないよう気をつけながら、関係を支援している。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	行事のご案内や、職員の異動・退職、新人職員の紹介等をその都度行えている。	×		○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	家族会を年2回開催し、ご家族同士の関わりが持てる場を提供している。家族会の後に、昼食のお弁当やバイキングを用意し、和んでいただけるように工夫している。それ以外でも行事で会食をする機会を設けている。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	○	転倒や、急変など起こり得るリスクは説明し、理解を得るようにしている。できる限りご本人の意思を尊重し、行動を抑制したり、禁止したりはしないよう対応策を考えている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	ご家族に、積極的に話しかけ最近の様子をお伝えしたり、「何か、ご希望はありますか?」と問いかけることで、何でも気軽に話してもらえるように、和やかな雰囲気作りを心がけている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	行っている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	家族の安心を第一考え、先々の不安を取り除けるような、提案(法人内でのアフターフォロー)をお伝えし、納得と安心をして頂いた上で退居していただいている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	行っている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいや ネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する 市町の日常生活圏域、 自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	説明会、行っている。運営推進会議や行事の場で。		◎		事業所の行事は案内を行い、毎年開設記念祭や新年会の餅つきなど多数の地域の人達の参加がある。地域行事への参加や、近隣の人と一緒に畑作業をしたり日常的に地域とつながりが持てるように関わりを深めている。事業所の2階にある会議室を地域に開放したり、地域に溶け込んだ事業所であるよう心がけている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	○	行事の度に案内状を直接渡して回ったり、地域からの行事案内があれば職員が参加したり、利用者と共に参加している。		○	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	年々と定着してきているとは感じる。近隣住民の協力を得ながら行事を行っている。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	○	毎月の介護教室やイベント行事等の案内をしている。インターネットでみて見学に来られることもある。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	毎日ではないがお向かいやお隣のかたと、顔を合わせたら言葉を交わしたり、農作業の話をしたりしている。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	○	様々な方面からボランティアにて来て頂き、行事を盛り上げて頂き利用者に喜んで頂いている。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。						
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	○	地区の交番や消防団の方々が訪問してくださってお話をしてくださる。公民館祭りへの出展や、運営推進会議には公民館長もご招待している。				
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	利用者の参加はできていない。家族や地域住民の参加はある。	×		△	スライドを使用して、事業所の評価等取組みや利用者の様子を分かりやすく伝えており、報告や意見交換を行っている。会議で出された意見は事業所で検討して、サービス向上に活かし状況や結果を報告している。家族や地域の方の参加のほかに、今後は利用者も参加できるように声かけを行っていく予定である。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	○	報告行っている。。			○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議で出された意見等は現場に持ち帰り活かし、次回必ず報告している。		×	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	日程や時間、問題ないと思われます。家族の参加増を目標に声掛け継続中		◎		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	グループホーム玄関ホールに置いている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	職員一人一人が理念を理解し、取り組んでいる				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	入居の際に理念の説明を行っている。	○	×		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修計画書を基に外部研修へ参加するようにしている。上司が個々に合わせた内容を案内する。PC上に研修案内あり。				代表者は職員が意欲を持ってスキルアップしながら、働きやすい環境で安心して仕事に取り組めるよう職場環境づくりに努めている。職員の意見が管理者を通して代表者に伝えられる体制になっており、職員の声を大切にしている。法人全体での親睦会が定期的に行われ、代表者や職員同士の交流が持てるような機会を作っており、職員がいい関係を築けるよう配慮している。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	年間計画を立て、月1回はOJTおこなっている。それとは別に法人全体の接遇研修会も年2回行っている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	理念にある、「やりがいのある職場づくり」を基本とし、職員の希望を取り入れながら、働きやすい職場である。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	管理者は地域包括支援センター主催の活動に参加しているが、一般職員の参加は研修等に限られる。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	年2回の面談以外にもその都度話をよく聞いてくれている。	○	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	定期的に勉強会にて理解を深めている。				どのような行為が虐待や心身的に不適切なケアにあたるのか、職員全員が理解しており、対応方法についても職員全員で共有している。言葉遣いや声の大きさなど、利用者に不快な印象を与えていないか管理者や職員同士で意識して確認している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	職員の声はすぐ届く環境であり、日々のケアも一緒に考えている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	虐待やパワハラ等、職員全員で高い意識を持ち職務についている。			◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	管理者会議でもストレスには気を配っており、問題があれば、意見を交換するようにして対応している。				
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	それらの項目や詳細についても勉強会にて学んでいる。マニュアルを基に勉強会を実施。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	3ヶ月に1回、身体拘束適正化検討委員会を開いている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	行っている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する 制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	理解している職員としていない職員とがいる。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	相談があれば支援行っていく。パンフレット等分かりやすく説明できればと思う。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	ケースが少なく実際に連携はとっていない。必要であれば迅速にとっていく。				
46	急変や事故発生時の 備え・事故防止の 取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアル整備しており、勉強会等にて周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	マニュアル整備しており、勉強会等にて周知している。経験豊富な職員である。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	どちらも記入しユニット会で検討し再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	安全面は十分に配慮しケアに反映している。病状の変化や副作用の可能性等も検討、周知している。				
47	苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルに沿って、迅速丁寧に対応している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	そのようにおこなっている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	誤解の無いように、誠意をもって対応している。内容は苦情処理ファイルに記録を綴じている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	玄関ロビーに意見箱の設置している。普段のコミュニケーションの中から聞き取りおこなっている。			◎	利用者の意見や要望は普段の関わりの中で聞くことが多く、内容や対応を職員で共有している。家族の意見は面会や電話連絡の際などに伺っており、意見箱に入れる用紙もアンケート形式にするなど要望を表しやすいように工夫している。管理者は職員と一緒に現場にすることが多く、職員は要望や提案を伝えやすいと感じている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	玄関ロビーに意見箱の設置している。家族会2回/年	○		◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	契約の際に説明し情報提供している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	面談を通じて意見を聞いてくださっている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	同じ現場で仕事をし、意見や提案があれば皆で協議しよりよい施設になるように検討している。			◎	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	自己評価表を用いて行っている。				サービス評価の評価結果や目標達成計画を運営推進会議や家族会で報告しているが、家族や地域の人達に評価の目的や内容についての周知が充分であるかわからない部分があるため、改めて説明を行い取組みのモニターをしてもらえるよう努めて欲しい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	自己評価と上司評価をもとに面談を行い課題点を双方で確認し合い、解決へ向けての方策を考えている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	事業所の質向上につながると考えている。目標達成へ向けてとりくんでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議や家族会でお伝えしている。	△	×	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	確認している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	原子力災害を想定していない。				地域の消防団や消防署、併設の事業所と連携して様々な想定で避難訓練を行っている。地域の人達の参加もあり、課題や問題点などを話し合って協力体制を構築している。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	行っている。2回/年。避難訓練(日中・夜間)				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	防火管理者が中心となり行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	地域の消防団・消防署・隣接している老健等と必ず連携を取りながら訓練行っている。近隣住民も見学にきたり意見交換も行っている。	×	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	隣の施設への応援要請に応え参加している。今後地域での災害訓練があれば参加予定。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	地域住民や利用者・家族を対象に介護教室を1回/月開催している。毎回講師やテーマを変え、冒頭に脳トレをおこなっている。				高齢者や家族からの相談支援に取り組んでおり、地域の相談ニーズに対応している。法人施設と協力して地域の人達を招いての行事やボランティアの受け入れなどを行っている。今後は市や地域包括支援センター等関係機関との連携を密にし、積極的に地域活動を行うなどの取組みに期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	相談があれば支援を行っている。		×	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	二階の会議室を開放し多目的に地域住民に活用してもらえるように説明している。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	中学生の職場体験の受け入れは行っているが、実習生の受け入れ事例はない。受け入れる体制はある。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	地域清掃、地域の福祉祭りや公民館祭りへは出店している。今後は他の関係機関と連携を密にし地域活動が行えるようにしたい。			△	